

平成30年度事業計画

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

本会は、定款の目的、第3条の「この法人は、我が国におけるバドミントン界を統括し、代表する団体として、バドミンントンの普及発展を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。」に沿って事業計画を実施する。

バドミントン競技を愛好する多くの人たちに普及振興、競技力向上の機会を提供し、選手のみならず役員等支援する人など各種競技会への参加、組織作りを通じて広くバドミントン競技の普及を図り、会員拡大を推進する。(目標30万人)

また、一昨年のリオ・オリンピックで史上初の金メダルと銅メダルを獲得し、新しい時代の幕開けとなりました。今年は、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて更なる選手強化と組織強化を図りながら、スポーツ愛好者と、バドミントン競技者に夢と希望を与え、更なる向上心の醸成とバドミンントンの普及発展につなげるものとする。

1. バドミンントンの普及及び指導

(1) 第27回全国小学生バドミントン選手権大会

スポーツ振興及び普及はもとよりスポーツを通じた健全育成を目的とした大会で、12月24日から12月28日まで、東京都八王子市で開催。選手約980名、競技役員延960名。

(2) 第19回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

早期よりバドミントンに興味を持たせ、選手の発掘、健全育成、競技力の向上と振興を目的とした大会で、8月10日から8月12日まで、熊本県八代市で開催。選手約330名、競技役員延850名。

(3) 第17回日本バドミントンジュニアグランプリ2018

全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制確立を図るため、小学生、中学生、高校生の優秀な選手を一堂に会して、相互の技能向上と交流、ジュニア層の普及を目的とした大会で、11月23日から11月25日まで、栃木県宇都宮市で開催。選手約500名、競技役員延700名。

(4) 第34回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

全国の小学生にバドミントン競技への機会を広く提供し、同競技を通じて相互の交流を深め、体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成を目的とした大会で、7月27日から7月30日まで、京都府長岡京市で開催。選手約880名、競技役員延920名。

(5) 第48回全国中学校バドミントン大会

中学生に正しい技術の習得を図り、心身の健全な育成を目的とした大会で、各地区男女各24校、約430名が参加、8月18日から8月21日まで、山口県山口市で開催。競技役員延780名。

- (6) 第19回全日本中学生バドミントン選手権大会
中学生の健全育成に寄与することを目的とした大会で、平成31年3月26日から3月28日まで、三重県津市で開催。選手約450名、競技役員延840名。
- (7) 第47回全国高等学校選抜バドミントン大会
高校生の交流と技術指導を目的とし、9地区で選抜大会を実施、参加者は男女53校、840名。また、この大会を経た各地区代表男女が参加の全国高等学校選抜大会を平成31年3月23日から3月27日まで、茨城県ひたちなか市で開催。
- (8) 第36回全日本レディースバドミントン選手権大会
バドミントンの普及と競技力の向上、また、参加者を通じての啓発を目的とした大会で、7月19日から7月22日まで京都府京都市で開催。選手約800名、競技役員延680名。
- (9) 第13回全日本レディースバドミントン競技大会（個人戦）
バドミントンの一層の普及・発展を目的とした大会で、12月14日から12月16日まで、熊本県熊本市で開催。選手約1,100名、競技役員延960名。
- (10) 用器具検査並びに認定
競技用具を調査、研究及び検査し、規格に合格した用器具を認定して、愛好者の使用の便を図る。
- (11) 競技規則書及びルール教本発行
競技規則並びに諸規程の周知徹底と各都道府県協会または7連盟が審判講習会・審判員資格検定会等の実施に対して使用される「2018-2019 BADMINTON 競技規則（諸規定集）」さらに3級・準3級公認審判員資格検定会でルールを分かり易く周知徹底させるためのルール教本（2018年版3級・準3級公認審判員資格検定会ルール教本「緑本」）の発行をする。これにより常に新しい競技規則等の正確な資料を提供し、正しいルールに基づく円滑な試合運営の実施と公認審判員有資格者の増員と資質の向上に資するものとする。
- (12) 会員普及
加盟団体と連携し、会員の拡大を図る。
- (13) 指導教本発行
2019年度の公認スポーツ指導者制度改定に伴い、公認上級コーチ・コーチ養成講習会で使用する教本を発行する。
- (14) 広報活動
都道府県協会との一体化した広報活動と、インターネットを利用した情報提供の内容を充実する。また、情報ネットワーク及びマスメディアなどにより、愛好者の拡大を図るとともに、PR啓発活動を進める。

- (15) 学連助成
全日本学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (16) 高体連助成
全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (17) 中体連助成
日本中学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (18) 小学生連盟助成
日本小学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (19) 教職員連盟助成
日本教職員バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (20) レディース連盟助成
日本レディースバドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (21) 小・中・高一貫指導
「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高一貫の指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施する。
- (22) バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開
本会が設立して以来の歴史やバドミントンそれ自体の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミンントンの価値を多くの人々と共有し、バドミンントンの発展に寄与する。このため、バドミンントンの歴史資料、書籍、大会の記録、プレーヤーの映像、各都道府県協会の資料などを収集、整理し、バドミンントンの記憶として残し、大会会場などで多くの人に公開する。
- (23) バドミントン・レガシーの創出と継承
我が国のバドミンントンの持続的発展を可能にする多様なバドミンントン活動を、バドミンントン・レガシーとして創出し、整備し、継承していく。2020年東京オリンピック開催を契機にし、バドミンントンに関連する青少年の教育や様々な人材育成に力を入れ、将来のバドミンントン伝道師役となるであろう青少年を海外に派遣するなど様々な活動を行い、オリンピックやバドミンントンを育て、発展させた理念・文化を直接体験し、その体験を多くの人と共有し、我が国のバドミンントン文化の発展に寄与する。
- (24) 東京 2020 応援プログラムの実施
2020年東京オリンピックの機運醸成と、大会後のレガシー創出に向けて大会組

織委員会が行なっている「東京 2020 参画プログラム」のバドミントン版プログラムを実施する。本会が開催する中央会場あるいは都道府県協会が開催する地域会場において、あらかじめ設定したプログラム（リボンシャトル・プロジェクト、ラリー大会など）あるいは地域ごとの独自プログラムを実施し、日本全国のバドミントン関係者が繋がり、オリンピックに向けてのムーブメントを形成する。また、このことを通じて都道府県協会事務局の安定運営に向けた支援を行う。

2. バドミントンに関する公認審判員及び公認指導者の養成と資格の認定

(1) 公認レフェリー有資格者の第1種大会への派遣と資質の向上

公認A級・B級レフェリー有資格者を平成30年度実施予定の全ての第1種年次大会(23大会)にレフェリー及びデピュティレフェリーとして派遣し、大会の運営全般の統一性と公正化を図る。平成26年度に創設された国内レフェリー認定委員制度、A級レフェリーの養成と資質の向上を図るためのインストラクター制度を活用し公認レフェリーの養成と資質の向上を図る。

(2) 公認レフェリー研修会

本会第1種大会における競技規則の統一と大会の公正さを図り、大会全般にわたる運営及び審判団の指導、管理を目的としておかれている公認レフェリー制度であるが、競技諸規定の改訂が頻繁に行われている現況を鑑み、諸規定に対するルール解釈の統一と資質の向上を図るために研修会を実施する。

(3) 公認A・B級レフェリー資格検定会

公認A級レフェリーの増強と公認B級レフェリーの定数(全都道府県各1名9地区各1名、7連盟各1名)の維持を図るため公認A級レフェリー資格検定会公認B級レフェリー資格検定会を実施する

(4) 公認審判員資格検定会

公認審判員技術の向上と正しい競技規則の習得により、円滑な大会運営を図るため、公認審判員資格審査認定委員に委託し、1級審判員資格検定会は本会が主催し、2級・3級・準3級審判員資格検定会は地区ならびに都道府県、7連盟において主催し実施する。

(5) 公認審判員の資格認定登録

公認審判員資格登録規程による合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図る。また、中高生を対象とした準3級公認審判員資格取得者は年々増加しているが、今後も更なる資格者の取得養成を進めていく。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術向上に役立ち、また、各加盟団体が開催する数々の大会において円滑な大会運営に活かされて行くものと確信する。

(6) 国際審判員・レフェリー資格取得試験受講者の養成と国際審判員・レフェリー資格既得者の研修及び活動

国際審判員養成のため、国際審判員資格者養成規程に基づき BadmintonAsia 国

国際審判員受講有資格者を対象とした国際審判員養成セミナー(講習会)を年に一度ダイハツヨネックスジャパンオープン(ワールドツアースーパー750)開催時に併せて開催し国際審判員資格取得受講者の養成を図るとともに、国際レフェリーインストラクター制度を活用し、資質の向上を図る。既述の活動はバドミントン界における国際貢献に寄与するとともに2020年の東京オリンピック競技運営に多いに貢献するものである。

(7) 公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本スポーツ協会と共催して、公認上級コーチ(バドミントン1級)、公認コーチ(バドミントン2級)、公認上級指導者(バドミントン3級)、公認指導員(バドミントン4級)の養成講習会を開催し、全国各地で活動している指導者に受講を促し、基本的、専門的スポーツ技術の指導と教育を行い、公認指導者資格の取得を推進する。

(8) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

各都道府県で開催する公認スポーツ指導者養成講習会で講師を務める者を育成・認定するための公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会を開催する。

(9) 公認スポーツ指導者の資格更新

公益財団法人日本スポーツ協会と共催事業である「公認スポーツ指導者育成事業」の各級養成講習会の合格者を、公益財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」に登録し、公認スポーツ指導者更新のための義務研修会(4年間に一回受けなければならない)を開催し、資質の向上及び指導体制の充実を図る。

(10) 公認スポーツ指導者養成制度の改正

平成31年度から実施する新たな公認スポーツ指導者養成制度((公財)日本スポーツ協会・(公財)日本バドミントン協会)に向けて、(公財)日本バドミントン協会「公認スポーツ指導者資格規程」、カリキュラムなどの改訂を行い、その趣旨、内容を周知する。また、新養成制度の構築と実施に向けて、新たな5種類の指導者資格(スタートコーチ、コーチ1、コーチ2、コーチ3、コーチ4)の内、コーチ1、コーチ2、コーチ3の養成講習会用公式テキストを編集、作成する。

(11) 全国指導者養成担当者会議

平成31年度から実施する新たな公認スポーツ指導者養成制度の構築と実施に向けて、全国の指導者養成担当者が一堂に会し、共通理解を図り、実施に際しての課題などの問題点を解決する。また、新制度における指導者育成計画を策定する。

(12) 全国巡回バドミントン講習会

国内のバドミントンの持続的発展を図るためには、地域の発展が不可欠である。全国各地でバドミントン講習会を開催し、バドミントンの普及、指導者育成の周知、地域の指導者の連携・指導の向上を、開催地と協力して行う。目標は、5年間

で47都道府県を巡回する。

3. 公益財団法人日本スポーツ協会、世界バドミントン連盟（BWF）及びアジアバドミントン連盟（BadmintonAsia）への加盟と国際貢献

- (1) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣
公益財団法人日本スポーツ協会、JOCへの代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、本競技の発展を図る。
- (2) 世界バドミントン連盟（BWF）総会等への代表者の派遣
5月にタイ・バンコクで開催される年次総会に代表者を派遣し、国際スポーツの振興や本競技の発展を図る。
- (3) アジアバドミントン連盟（BadmintonAsia）総会、理事会等への代表者の派遣
年1回開催される総会に代表者を派遣し、アジアスポーツの振興のため協調し、本競技の発展を図る。また、年3回程度開催予定のBadmintonAsia理事会に派遣し、BadmintonAsia事業活動と加盟国全ての普及発展に貢献し、併せて2020東京オリンピック・パラリンピック開催の為の事前準備及び普及宣伝活動を行う。
- (4) 国際貢献
バドミントン発展途上国に物品支援(中古ラケット、シャトル、シューズ等)を行い、アジア及び世界のバドミントン界の普及発展に寄与する。尚、この物品支援は原則として、日本で開催される国際大会中に、多くのバドミントンファンに寄付を募り実施するものとする。
- (5) 2018アジア競技大会への代表者の派遣
8月にインドネシア、ジャカルタで開催される2018アジア競技大会に代表者を派遣し、2020東京オリンピックに向けての普及宣伝活動及び、円滑な大会運営の為の研修視察を実施する。併せてアジアバドミントン連盟加盟国間との国際交流を図る。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

- (1) 第68回全日本実業団バドミントン選手権大会
6月13日から6月17日まで山口県周南市・下松市で開催。選手約1,600名、競技役員延980名。
- (2) 第69回全国高等学校バドミントン選手権大会
8月4日から8月9日まで静岡県浜松市で開催。選手約1,000名、競技役員延970名。
- (3) 第6回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会
8月10日から8月11日まで、神奈川県横浜市で開催。選手約200名、競技役員延150名。

- (4) 第57回全日本教職員バドミントン選手権大会
8月11日から8月15日まで愛知県一宮市で開催。選手約780名、競技役員延830名。
- (5) 第20回全国高等学校定時制通信制体育大会バドミントン大会
8月16日から8月19日まで神奈川県小田原市で開催。選手約500名、競技役員延330名。
- (6) 第42回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会
8月25日から8月26日まで、鹿児島県霧島市で開催。選手約240名、競技役員延430名。
- (7) 第61回全日本社会人バドミントン選手権大会
8月31日から9月5日まで高知県高知市・南国市で開催。選手約1,000名、競技役員延990名。
- (8) 第37回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
9月14日から9月17日まで長野県長野市で開催。選手約860名、競技役員延880名。
- (9) 日本スポーツマスターズ2018バドミントン競技会
公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、9月15日から9月17日まで北海道江別市で開催。選手約480名、競技役員延780名。
- (10) 第73回国民スポーツ大会バドミントン競技会
公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、10月5日から10月8日まで福井県勝山市で開催。監督・選手444名、競技役員延680名。
- (11) 第69回全日本学生バドミントン選手権大会
10月12日から10月18日まで京都府京都市・長岡京市で開催。選手約990名、競技役員延1,200名。
- (12) 第35回全日本シニアバドミントン選手権大会
11月22日から11月25日まで愛知県刈谷市他で開催。選手約3,400名、競技役員延1,140名。
- (13) バドミントン日本リーグ2018
11月15日から11月18日までの間、茨城県石岡市で開催。選手約160名、競技役員延500名。
- (14) 平成30年度第72回全日本総合バドミントン選手権大会
11月26日から12月2日まで東京都で開催。選手約280名、競技役員延980名。

(15) バドミントン S/J リーグ 2018

12月8日から平成31年2月17日までの間、全国各地で開催。選手約160名、競技役員延1,300名。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1) ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2018

4月3日から4月8日まで大阪府守口市で開催。選手約320名、競技役員980名。

(2) ヨネックス秋田マスタース2018 (ワールドツアースーパー100)

7月24日から7月29日まで秋田県秋田市で開催。

(3) ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2018 (ワールドツアースーパー750)

9月11日から9月16日まで東京都で開催。日本選手約70名、外国選手約160名、競技役員延1,550名。

(4) ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン2018

10月24日から10月28日まで大阪府大阪市で開催。

(5) 日韓ナショナル交流競技会

5月3日から7日まで、富山県高岡市で、役員5名、選手男女各10名を迎え、競技力向上を図る。

(6) 日・韓高校生交流競技会

5月中旬に6日間、役員4名、選手男女各8名を韓国(場所未定)へ派遣。
11月中旬、役員4名、選手男女各8名を迎え、京都府長岡京市で開催し競技力向上を図る。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1) トマス杯・ユーバー杯

5月16日から5月28日までの13日間、タイ・バンコク市へ役員8名、選手男女各10名、計28名を派遣し、上位入賞を目指す。

(2) 世界選手権大会2018

7月27日から8月6日までの11日間、中国・南京市へ役員、選手を派遣し、上位入賞を目指す。

(3) 第18回アジア競技大会

8月20日から9月2日までの14日間、インドネシア・ジャカルタへ役員、選手を派遣し、上位入賞を目指す。

- (4) 第26回日・韓・中ジュニア交流競技会
8月23日から8月29日までの7日間、役員3名、高校生男女各6名を韓国・麗水市へ派遣。
- (5) 世界ジュニア選手権大会2018
11月1日から11月19日までの19日間、カナダ・トロント市で開催、団体戦・個人戦を実施。役員6名、選手男女各8名で選手を派遣。両種目でメダル獲得を目指す。

7. バドミントンの競技力の向上

- (1) スポーツ医科学研究
公益財団法人日本スポーツ協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び強化本部の各部と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向上と強化体制を整える。
- (2) アンチドーピング対策
JADA（公益財団法人日本アンチドーピング機構）との協力により「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施する。
- (3) 選手強化
全日本総合選手権大会の成績を中心に、各種大会や日本ランキング等を参考に2020年東京オリンピック対策プロジェクトと位置づけ、ナショナルチームA代表・B代表を男女別に日本代表選手を編成し、国内合宿、海外遠征等により強化を図り、2020年東京オリンピックでのメダル獲得を目指す。また、競技者育成の一貫指導システムを中心としてジュニア選手の競技力向上を図るために、カテゴリーをU-19（高校生）・U-16（中学生）・U-13（小学生）に分けて強化を実施する。オリンピックをはじめとする世界大会等に備え有望新人を発掘の上、国内外合宿において育成強化を図り、国際大会（世界ジュニア）等に派遣、メダル獲得を目指す。
- (4) 競技用具補助
国際大会出場選手に対し、競技用具を補助し、技術力の向上を図る。